

令和8年度

大松小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ、主体的に学習に取り組む子どもの育成

校長

寺内 壽

学力向上推進員

【学力向上推進員】園子えりか
【委員】教頭 林洋美 教務 堀内真紀子 特別支援 粟田のり子
1年主任 小島有紀 2年主任 熊山稔子 3年主任 平岡里奈
4年主任 重成祐奈 5年主任 朝日奈美樹 6年主任 丹澤耕平

【各校の取組状況の把握について】

互いに授業参観しあったり、情報共有をしたりすることにより、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全体の8割以上の児童が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。 ●知識・技能の定着に個人差がある。 ○算数科において、ふりかえりを継続することで、学習内容と生活を結びつけられる児童が増えている。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。(児童全体の8割以上) ・習得した知識・技能を他の学習や生活の場面で生かすことができる。	・朝活の時間を活用し、ミニテスト・プリント・タブレットのドリルなどにより反復学習を行い、知識・技能の定着を図る。 ・タブレットの効果的な利用について校内研修で検討・共有し、知識・技能の向上のために活用する。 ・TTの時間を有効に活用し、個別対応の充実を図る。 ・めあて・ふりかえりに一貫性をもたせた授業づくりに取り組む。 ・具体物を用いたり、体験的な活動と結びつけることで、理解を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや意見を伝えようとする児童が増えている。 ●自分の考えを、根拠を示しながら分かりやすく伝えることに課題がある。	・自分の考えや意見を、根拠を示しながら相手に分かりやすく伝えることができる。	・ペア・グループ活動、朝のスピーチ等を継続して行い、自分の考えを話す機会を増やす。 ・資料や写真等を用い、それらを根拠にして自分の意見を話す機会を増やす。 ・子どもが根拠を考えられるような問いかけや問い直しを教師が行い、意見を受け止めることで、考えを伝えられるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ふりかえりを通して、自分の成長に気づき、目標もてる児童が増加している。 ●自ら課題を見つたり、課題解決に向けて粘り強く取り組むことに課題がある。	・自分で課題を見つけ、自己調整しながら、課題の解決方法を見つけることができる。	・ふりかえりシート・指標目標を継続して活用する。 ・児童の成長を見取り、全体に共有し、価値付けを図る。 ・児童の興味・関心に沿った学習活動と教育課程を教師が意識して結びつけて指導を行う。 ・スモールステップで学習への心理的ハードルを下げるとともに、成功体験を積み重ねることができるようになる。			